

38:12 かなり日がたって、ユダの妻、すなわちシュアの娘が死んだ。その喪が明けたとき、ユダは、羊の群れの毛を刈る者たちのところ、ティムナへ上って行った。友人でアドラム人のヒラも一緒にあった。

38:13 そのときタマルに、「ご覧なさい。あなたのしゅうとが羊の群れの毛を刈るために、ティムナに上って来ます」という知らせがあった。

38:14 それでタマルは、やもめの服を脱ぎ、ベールをかぶり、着替えをして、ティムナへの道にあるエナイムの入り口に座った。シェラが成人したのに、自分がその妻にされないことが分かったからである。

38:15 ユダは彼女を見て、彼女が顔をおおっていたので遊女だと思い、

38:16 道端の彼女のところに行き、「さあ、あなたのところに入らせてほしい」と言った。彼は、その女が嫁だとは知らなかったのである。彼女は「私のところにお入りになれば、何を私に下さいますか」と言った。

38:17 彼が「群れの中から子やぎを送ろう」と言うと、彼女は「それを送ってくださるまで、何か、おしるしを下されば」と言った。

38:18 彼が「しるしとして何をやろうか」と言うと、「あなたの印章とひもと、あなたが手にしている杖を」と答えた。そこで彼はそれを与えて、彼女のところに入った。こうしてタマルはユダのために子を宿した。

38:19 彼女は立ち去って、そのベールを外し、やもめの服を着た。

38:20 ユダは、その女の手からしるしを取り戻そうと、アドラム人の友人に託して子やぎ

を送ったが、彼はその女を見つけることができなかった。

38:21 その友人がその土地の人々に「エナイムの道端にいた娼婦はどこにいますか」と尋ねると、彼らは「ここに娼婦がいたことはありません」と答えた。

38:22 彼はユダのところに戻って来て言った。「あの女は見つかりませんでした。あの土地の人たちも、ここに娼婦がいたことは無い、と言いました。」

38:23 ユダは言った。「われわれが笑いぐさにならないように、あの女にそのまま取らせておこう。私はこの子やぎを送ったけれども、あなたはあの女を見つけられなかったのだから。」

ユダの子孫からダビデ王が生まれ、その王の子孫からイエス様が人となって生まれました。そのユダではありますが、聖書では決して脚色も美化もしていません。人間として不完全な部分書かれているのです。聖書は間違いのない神のことばですから、事実が書かれています。またその事実を通して神様はご自身を啓示なさり、ご計画を進められるのです。

ユダは異教の風習に染まってしまい、遊女と関係を持ちました。古来から偶像の神々の神殿では、巫女が娼婦となり、それまた宗教的な意味を持っていたのです。まことの神以外のものを信仰するのは、人間の願望のためですから、欲望と関連させることは当然の結果です。私たちはまことの神を願望のために用いてはなりません。

またユダは恐れから自分を守るために、当時の良識もタマルのことも考えずに過ごしていました。その結果タマルは亡き夫の父であるユダを、陥れるようなことを謀ったのです。ユダの子孫を産むことによって、その家系に入ることが目的でした。

またユダは「われわれが笑いぐさにならないために」と、また自分を守ることを優先させています。そこには神の前に出て、自分がどうであったかという自省があり

ません。

神様を第一にしないままで、自分や生活を守っているつもりでも、知らないうちに思いがけないことが進んでいる場合があります。常に主とともに歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

